

人々の暮らしを理解する実習

[実習] 第1学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 明野聖子 naga-s@hoku-iryo-u.ac.jp 竹生礼子 川添恵理子 田中裕子 表山知里 増田悠佑
看護学科教員全員

【概要】

本実習では、暮らしの場を問わず、あらゆる健康状態の人々に対する看護をシームレスに創造する力を培うことをねらいに、地域の人々との交流を通して、人々の多様な暮らしの場における人々の生活を理解するために必要な視点について学ぶ。

【学修目標】

1. 看護の初学時に地域の人々と交流することにより、高い倫理観と豊かな人間性をベースにしたコミュニケーション力やケアマインドを身につける。
2. 人々の多様な生活、地域の環境、価値観にふれ、人々を見つめる視点を幅広くもつことの重要性を学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1段階	地域の人々の多様な暮らしの場における多様な暮らしに対する理解を深める [夏季]	1. 人々が暮らす地域をみる 地域の人々の多様な暮らしの場に出向き、地域の文化や環境を実際に見る 2. 地域の人々の暮らしや健康に対する思いにふれる 1) 地域の人々と出会い、暮らしの様子を観察する 2) 地域の人々との対話を通して、人々が生きてきた暮らしの歴史や文化、暮らしや健康に対する思い、価値観にふれる 3. 地域の人々の暮らしを理解する 1) 地域の人々の暮らしを理解するために必要な視点を整理する 2) グループ討議や発表により、多様な暮らしの場における人々の生活に対する理解を深める	明野、竹生、田中、表山、川添、増田、看護学科教員
第2段階	地域の人々の多様な暮らしの場における多様な暮らしに対する理解を深める [冬季]	1. 人々が暮らす地域をみる 1) 地域の人々の多様な暮らしの場に出向き、地域の文化や環境を実際に見る 2. 地域の人々の暮らしや健康に対する思いにふれる 1) 地域の人々と出会い、暮らしの様子を観察する 2) 地域の人々との対話を通して、人々が生きてきた暮らしの歴史や文化、暮らしや健康に対する思い、価値観にふれる 3. 多様な暮らしの場における人々の生活を理解する 1) 地域の人々の暮らしを理解する視点(第1段階)をもとに、多様な場における人々の生活に対する理解を深める 2) 夏と冬の暮らしを比較して、1年を通じた地域の人々の暮らしを理解するための視点を整理する 3) グループ討議や発表により、北海道の1年を通じた人々の多様な暮らしの場における生活に対する理解を深める	明野、竹生、田中、表山、川添、増田、看護学科教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

1. 評価対象は、第1段階・第2段階ともに、実習目標達成度と記録物とする。第1段階と第2段階をあわせて100%として評価する。
2. 各段階における評価対象の配点割合：
第1段階 実習目標達成度30% . 実習報告会 (作成資料) と実習レポート20%
第2段階 実習目標達成度30% . 実習報告会 (作成資料) と実習レポート20%

【教科書】

河原加代子：地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤、医学書院

【備考】

実習に関する記録等の配信には、Google Classroomを利用する。

【学修の準備】

1. 人々の暮らしの理解に必要となる知識や考え方について、既習の内容を復習して実習に臨む。
2. 実習施設や実習施設のある地域について、関連ホームページ等により調べ自己学習して実習に臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1

【実習方法】

1. 実習場所および施設

当別町内および周辺市町村、札幌市北区あいの里地域内の住民が集まる場所（公民館、保健センター、地区センター他）人々の暮らしの場（自宅や施設）、社会福祉協議会に関連したボランティア組織等を通じた自宅訪問
高齢者大学、町内会女性部、すこやか倶楽部、住民主体のボランティア組織等

2. 実習方法

実習は、第1段階と第2段階あわせて10日間とする。

実習期間：

第1段階 8月28日～9月1日

第2段階 2月5日～2月16日のうち1週間

【実務経験】

明野聖子（保健師） 竹生礼子（訪問看護師、保健師、介護支援専門員） 川添恵理子（地域看護専門看護師、退院調整看護師、介護支援専門員） 田中裕子（保健師） 表山知里（保健師） 増田悠佑（訪問看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

保健センター、保健所、訪問看護事業所、介護施設等の実務経験をいかして、看護実践に役立てられる実習指導を行う。